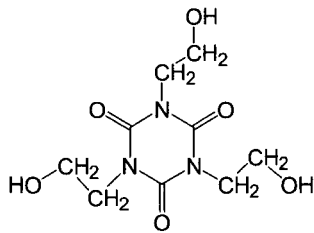
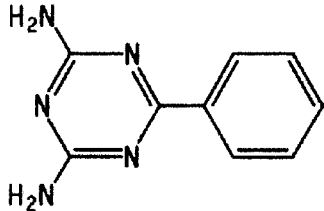


既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-1051	CAS No.	839-90-7
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名称：1, 3, 5-トリス(2-ヒドロキシエチル)-1, 3, 5-トリアジン-2, 4, 6-(1H, 3H, 5H)-トリオン</p> 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性 純度 99.0%. 溶媒 (注射用水-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性 純度 99.0%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/TU. 2.612 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 2.612 mg/mL +S9mix 群 : 2.612 mg/mL 24 時間処理群 : 2.612 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：注射用水	
	純度	99.0 %.	
	用量	4 投与群 (30, 100, 300, 1000mg/kg)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与毒性 : 300 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与毒性 : 組織学的所見 (肝-髄外造血 : 1000♀) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
他の毒性	-		
回復性	実施せず		
人健康影 響判定根 拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 300 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。		

藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養 試験濃度： 設定濃度 1000 mg/L 実測濃度 940mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 0-72hErC50 (設定値に基づく) >1000mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =1000mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)				
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 1000 mg/L 実測濃度 930mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 48hEiC50 (設定値に基づく) >1000mg/L				
ミジンコ繁殖阻害	生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、48時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 94mg/L (時間加重平均値) 助剤： なし 21dNOEC (設定値に基づく) =100mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)				
魚類急性毒性	生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 100mg/L 実測濃度 91.9mg/L (幾何平均値) 助剤： なし 96hLC50 (設定値に基づく) >100mg/L				
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。				
環境調査 ※1	媒体	実施年度	検体	検出範囲	検出下限値
	水質	S54	0/18	—	5~10(μ g/L)
	底質	S54	0/18	—	0.002~0.07(μ g/g-dry)
	魚類	—	—	—	—
備考	1 S55版「化学物質と環境」(環境省環境保健部安全課)				

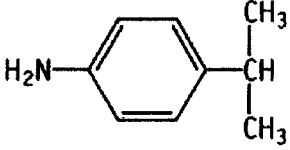
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	5-1028	CAS No.	91-76-9
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。		
名称 構造式等	 <p>名 称： 2, 4-ジアミノ-6-フェニル-s-トリアジン</p>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 98.0%以上. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 5000 μg/plate +S9mix 群 : 5000 μg/plate (2500 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陽性 D20=0.045mg/mL (+S9mix 処理群 : 構造異常) +S9mix 群及び 24 時間処理群において構造異常の誘発, 48 時間処理群において数的異常の誘発. 純度 98.0%以上. 溶媒 (1%CMC-Na 水溶液-懸濁). CHL/TU. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. (本試験) -S9mix 群 : 5.0 mg/mL (全用量で被験物質の析出) +S9mix 群 : 0.156 mg/mL (細胞毒性のため 0.0781 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.8 mg/mL (細胞毒性のため 0.4 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 0.8 mg/mL (0.4 mg/mL 以上で被験物質の析出) (追加試験) +S9mix 群 : 0.16 mg/mL (細胞毒性のため 0.14 mg/mL まで観察) 24 時間処理群 : 0.9 mg/mL (細胞毒性のため 0.8 mg/mL まで観察) 48 時間処理群 : 1.6 mg/mL (0.4 mg/mL 以上で被験物質の析出) ① C-mitosis を呈した。		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 0.5%CMC-Na 水溶液	
	純度	98.0%以上	
	用量	3 投与群 (4, 20, 100 mg/kg/day)	
	死亡	100♂(1/12), 100♀(1/12)	
	NOEL	反復投与毒性 : 4 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 4 mg/kg/day	

	<p>推定根拠</p> <p>反復投与毒性： 体重↓：20 以上♀♂ 一般状態（摂餌量↓：20 以上♀♂） 血液学的検査（MCH↑：20 以上♂） 生殖発生毒性： 哺育不良：20 以上♀ 4 日児生存率↓：20 以上♀♂</p> <p>他の毒性</p> <p>反復投与毒性： 一般状態（自発運動低下，呼吸緩徐：100♂） 血液学的検査（RBC↓・Hct↓・MCHC↑・Ret↑：100♂） 血液生化学的検査（Alb↑・A/G↑・GOT↑・Cho↑・TG↓・PL↑・Bil↑ Na↓・K↓：100♂） 絶対重量（肝↑・副腎↑：100♂） 組織学的検査（肝－小葉中心性肝細胞肥大：100♀♂） 生殖発生毒性： 死産児率↑・出産率↓：100♀、 生後 0 日児体重↓・生後 4 日児体重↓：100♀♂</p> <p>回復性</p> <p>実施せず</p>
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陰性であるが、染色体異常試験は陽性、NOEL 4 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>試験濃度： 設定濃度 15.3、24.4、39.1、62.5、100mg/L 実測濃度 15.2、24.2、39.4、61.9、97.0mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>0-72hErC50（設定値に基づく）=70.6mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=39.1mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式</p> <p>試験濃度： 設定濃度 7.68、19.2、48.0、120、300 mg/L 実測濃度 7.52、18.7、46.6、118、291mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hEiC50（設定値に基づく）=52.0mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、週 3 回換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 1.91、3.43、6.17、11.1、20.0 mg/L 実測濃度 1.83、3.31、5.93、10.6、19.7mg/L（時間加重平均値）</p> <p>助剤： なし</p> <p>21dNOEC（設定値に基づく）=1.91mg/L</p>

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、48 時間後に換水 物質濃度：設定濃度 25.0、50.0、100 mg/L 実測濃度 25.5、50.4、101mg/L (時間加重平均値) 助剤：なし 96hLC50 (設定値に基づく) >100mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 50.0 mg/L 群：異常遊泳 (72hr、96hr) 100 mg/L 群：異常遊泳 (3hr、24hr、48hr、72hr、96hr) 異常呼吸 (96hr)</p>
生態影響 判定根拠	<p>3 種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値が 48hEC50=52.0mg/L(ミジンコ急性遊泳阻害試験) であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=1.91mg/L であることから、第三種監視化学物質相当でない。</p>
備考	

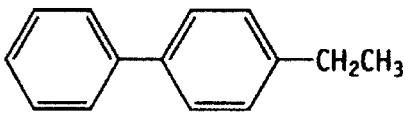
既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-206	CAS No.	99-88-7
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称： 4-（1-メチルエチル）アニリン 		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陽性 比活性値=3454rev/mg (+S9mix 群：TA100) +S9mix 群の TA100, TA1535 で対照の 2 倍を超える変異コロニーの誘発 純度 99.27%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I) -S9mix 群：1500 μg/plate (TA100, TA1537：750 μg/plate 以上で菌の生育阻害) TA98, TA1535, WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害 +S9mix 群：1500 μg/plate (最高用量で菌の生育阻害) (本試験 II) -S9mix 群：1500 μg/plate (TA98, TA100, TA1535, TA1537 : 750 μg/plate 以上で菌の生育阻害 WP2 uvrA：最高用量で菌の生育阻害) +S9mix 群：188 μg/plate (TA100, TA1535) 1500 μg/plate (TA98, TA1537, WP2 uvrA : 最高用量で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 99.27%. 溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 1.4 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施. -S9mix 群：1.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.25 mg/mL まで観察) +S9mix 群：0.6 mg/mL (細胞毒性のため 0.30 mg/mL まで観察) 24 時間処理群：0.4 mg/mL (細胞毒性のため 0.20 mg/mL まで観察) 48 時間処理群：0.4 mg/mL (細胞毒性のため 0.20 mg/mL まで観察)		
反復経口投 与毒性 生殖発生毒 性併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	99.27%	
	用量	3 投与群 (6, 20, 60 mg/kg/day)	
	死亡	60♀ (1/12)	
NOEL	反復投与毒性：6 mg/kg/day 生殖発生毒性：20 mg/kg/day		

推定根拠	反復投与毒性： 一般状態（眼貧血：20以上♀♂） 血液学的検査（Met-Hgb↑：20以上♂） 絶対重量（脾↑：20以上♀・60♂） 相対重量（脾↑：20以上♀・60♂、肝↑：20以上♂・60♀） 組織学的検査（骨髄—造血亢進：20以上♀♂、 脾—鬱血・色素沈着・髓外造血：20以上♀♂） 生殖発生毒性： 4日児生存率↓：60♂
他の毒性	血液学的検査（Hct↓・Hgb↓・RBC↓・MCV↑・MCH↑・MCHC↓・Plt↑・Ret↑：60♂） 血液生化学的検査（Alb↑・A/G↑・Bil↑：60♂） 絶対重量（副腎↓：60♂） 組織学的所見（肝—クッパー細胞色素沈着・肝細胞肥大：60♀♂）
回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	染色体異常試験は陰性であるが、Ames試験は陽性、NOEL 6 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 0.307、0.768、1.92、4.80、12.0、30.0 mg/L 実測濃度 0.273、0.680、1.73、4.23、10.5、25.5mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 0-72hErC50（実測値に基づく）=17.8mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.680mg/L
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 0.316、1.00、3.16、10.0、31.6、100 mg/L 実測濃度 0.311、0.972、3.13、9.57、30.9、98.2mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 48hEiC50（設定値に基づく）=1.49mg/L
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 試験濃度：設定濃度 0.00286、0.00514、0.00926、0.0167、0.0300mg/L 実測濃度 0.00262、0.00465、0.00859、0.0155、0.0285 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 21dNOEC（設定値に基づく）=0.00514mg/L

魚類急性 毒性	<p>生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 10.5、15.8、23.7、35.6、53.3、80.0mg/L 実測濃度 10.4、15.6、24.0、35.8、53.8、80.2 mg/L（時間加重平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）=45.5mg/L</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 23.7 mg/L 群：異常遊泳（48hr、72hr、96hr） 35.6 mg/L 群：異常遊泳（3hr、24hr、48hr、72hr、96hr） 遊泳不能（96hr） 53.3 mg/L 群：異常遊泳（3hr、24hr、48hr） 遊泳不能（48hr、72hr、96hr） 異常呼吸（48hr） 80.0 mg/L 群：遊泳不能（3hr）</p>
生態影響 判定根拠	<p>ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=1.49mg/L かつミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.00514mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。</p>
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	4-15	CAS No.	5707-44-8
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 第三種監視化学物質相当		
名称 構造式等	名称：4-エチル-1,1-ビフェニル <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 97.998%. 溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I, II) -S9mix 群 : 19.5 μg/plate (TA98,TA100,TA1535,TA1537 : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) 39.1 μg/plate (WP2 uvrA : 9.77 μg/plate 以上で菌の生育阻害) +S9mix 群 : 78.1 μg/plate (TA98,TA100,TA1535,TA1537 : 最高用量で菌の生育阻害) 313 μg/plate (WP2 uvrA : 156 μg/plate 以上で菌の生育阻害)		
染色体 異常	陰性 純度 97.998%. 溶媒 (アセトン-溶解). CHL/TU. 5.0 mg/mL まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施. -S9mix 群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15, 1.25 mg/mL 以外を観察) +S9mix 群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15 mg/mL 以外を観察) 24 時間処理群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.15, 2.5 mg/mL 以外を観察) 48 時間処理群 : 5.0 mg/mL (細胞毒性のため 0.0375 mg/mL まで観察)		
28 日間 反復投与	投与方法	強制経口投与 溶媒 : コーン油	
	純度	97.998%	
	用量	4 投与群 (20, 100, 500, 1000mg/kg/day)	
	死亡	500♂(1/10), 1000♂(5/10), 1000♀(4/10)	
	NOEL	20 mg/kg/day	
推定根拠	一般状態 (流涎 : 100 以上 ♀♂) 血液学的検査 (Cl↑ : 100 以上♂) 相対重量 (肝↑ : 100 以上♀・500 以上♂) 組織学的検査 (肝-肝細胞肥大 : 100 以上♀♂ 腎-皮質の塩基性尿細管 100 以上♀♂ 胃-腺胃のびらん : 100 以上♀・1000♂)		

	他の毒性	<p>体重↓：500以上♀♂ 一般状態（摂餌量↓：500以上♀♂ 黒色便・排便量の減少・腹部周辺脱毛：500以上♀♂ 腹臥位・呼吸深大・皮膚色蒼白・体表温低下：1000♀♂ 被毛の汚れ：500以上♀・1000♂） 尿検査（尿量↑・尿潜血：500以上♀・1000♂、尿中タンパク↑：1000♀♂） 血液学的検査（MCV↓：500以上♂、MCH↓：1000♂） 血液生化学的検査（A/G↑：500以上♂、CRN↑：500以上♀♂ Pi↑・Ca↑・LDH↑：1000♀、Na↑・GPT↑：1000♂ γ-GTP↑：1000♀♂） 絶対重量（肝↑：500以上♀♂、腎↑：1000♀、胸腺↓：500以上♂♀） 相対重量（腎↑：500以上♀♂、胸腺↓：500以上♂♀） 組織学的検査（肝－クッパー細胞のヘモジリデン沈着・巣状壊死：500以上♂♀ 胸腺－萎縮：500以上♀♂ 脾－ヘモジリデン沈着：500以上♀ 腎－皮質尿細管拡張・髓質塩基性尿細管・尿細管拡張・タンパク性尿円柱：500以上♀♂ 胃－前胃の粘膜上皮過形成：500以上♀♂）</p>
	回復性	<p>体重↓ 尿検査（尿中タンパク↑） 肝重量↑、腎重量↑ 血液学的検査（MCV↓） 血液生化学的検査（γ-GTP↑） 組織学的所見（肝－ヘモジリデン沈着 腎－皮質及び髓質の好塩基性尿細管・皮質尿細管拡張、 タンパク性尿円柱）</p>
簡易生殖試験	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油
	純度	99.71%
	用量	4投与群（10, 30, 100, 300 mg/kg/day）
	死亡	300♀（4/12）
	NOEL	反復投与毒性：10 mg/kg/day 生殖発生毒性：30 mg/kg/day
	推定根拠	反復投与毒性： 流涎：30以上♂・100以上♀ 生殖発生毒性： 妊娠期間↑：100以上 出生率↓・出産率↓・4日生存児数↓：100以上
	他の毒性	反復投与毒性： 体重↓：100以上♂・300♀ 摂餌量↓：300♀ 生殖発生毒性： 着床数↓・総出産児数↓・分娩率↓：300 生存児数（生育0日）↓：300
回復性	実施せず	

人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 20 mg/kg/day（簡易生殖においては NOEL 10 mg/kg/day）であることから第二種監視化学物質相当。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法： OECD-TG201 培養方式： 振とう培養（密閉） 試験濃度： 設定濃度 0.0100、0.0220、0.0480、0.105、0.230、0.500mg/L 実測濃度 0.00565、0.0133、0.0270、0.0574、0.165、0.360mg/L(幾何平均値) 助剤： HCO-40 2mg/L 0-72hErC50（実測値に基づく）=0.149mg/L 0-72hNOECr（実測値に基づく）=0.0270mg/L</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG202 試験方式： 止水式 試験濃度： 設定濃度 0.100、0.180、0.320、0.560、1.00mg/L 実測濃度 0.0776、0.135、0.236、0.387、0.692mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 及びジメチルホルムアミド（1:1） 10.0mg/L 48hEiC50（実測値に基づく）=0.270mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法： OECD-TG211 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 試験濃度： 設定濃度 0.0040、0.0130、0.0400、0.130、0.400mg/L 実測濃度 0.0027、0.0097、0.0279、0.0906、0.274mg/L（時間加重平均値） 助剤： HCO-60 及びジメチルホルムアミド（5:12） 100mg/L 21dNOEC（実測値に基づく）=0.0279mg/L</p>
魚類急性毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法： OECD-TG203 試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度： 設定濃度 0.500、0.900、1.60、2.80、5.00mg/L 実測濃度 0.342、0.635、1.21、2.49、4.87mg/L（幾何平均値） 助剤： HCO-40 被検物質の 20 倍量（最高 100mg/L） 96hLC50（実測値に基づく）=0.601mg/L * 2.8mg/L 以上の濃度群で全個体死亡</p> <p>また、以下の濃度群において以下のような毒性症状が認められた。 0.500 mg/L 群： 異常遊泳（72hr 1/10） 0.900 mg/L 群： 異常遊泳（48hr 8/9、72hr 7/7、96hr 4/4） 遊泳不能（48hr 1/9） 1.60 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 1/10、48hr 1/4、72hr 1/1、96hr 1/1） 遊泳不能（48hr 3/4） 2.80 mg/L 群： 異常遊泳（24hr 1/3） 遊泳不能（24hr 2/3）</p>

生態影響 判定根拠	藻類生長阻害試験において 0-72hErC50=0.149mg/L、0-72hNOECr=0.0270mg/L、ミジンコ急性遊泳阻害試験において 48hEiC50=0.270mg/L、ミジンコ繁殖阻害試験において 21dNOEC=0.0279mg/L 及び魚類急性毒性試験において 96hLC50=0.601mg/L であることから、第三種監視化学物質相当。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	2-243	CAS No.	77-85-0
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名称：1, 1, 1-トリス (ヒドロキシメチル) エタン</p> $ \begin{array}{c} \text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH}_3-\text{C}-\text{CH}_2\text{OH} \\ \\ \text{CH}_2\text{OH} \end{array} $		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (注射用水-溶解).</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I, II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 99.0%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU.</p> <p>1.2 mg/mL (10mM) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 1.2 mg/mL</p> <p>+S9mix 群 : 1.2 mg/mL</p> <p>24 時間処理群 : 1.2 mg/mL</p> <p>48 時間処理群 : 1.2 mg/mL</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	99.0 %	
	用量	3 投与群(100, 300, 1000 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与 : 300 mg/kg/day 生殖発生毒性 : 1000 mg/kg/day	
	推定根拠	反復投与 : 体重 ↓ (妊娠 20 日) : 1000 ♀ 血液生化学的検査 (TP ↑ · GOT ↑ · GPT ↑ : 1000 ♂, Glu ↓ : 1000 ♂) 生殖発生毒性 : 全群で特に毒性学的影響は認められていない	
他の毒性	-		
回復性	実施せず		

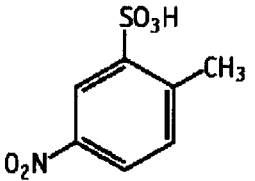
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性、NOEL 300 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。
藻類生長阻害	<p>生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i></p> <p>試験法： OECD-TG201</p> <p>培養方式： 振とう培養</p> <p>試験濃度： 設定濃度 1000mg/L 実測濃度 設定濃度の 964mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>0-72hErC50 (設定値に基づく) >1000mg/L</p> <p>0-72hNOECr (設定値に基づく) =1000mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)</p>
ミジンコ急性遊泳阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG202</p> <p>試験方式： 止水式</p> <p>試験濃度： 設定濃度 1000mg/L 実測濃度 968mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>48hEiC50 (設定値に基づく) >1000mg/L</p>
ミジンコ繁殖阻害	<p>生物種： オオミジンコ <i>Daphnia magna</i></p> <p>試験法： OECD-TG211</p> <p>試験方式： 半止水式、週に3回換水</p> <p>試験濃度： 設定濃度 100 mg/L 実測濃度 88.5mg/L (時間加重平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>21dNOEC (実測値に基づく) =88.5mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)</p>
魚類急性毒性	<p>生物種： ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i></p> <p>試験法： OECD-TG203</p> <p>試験方式： 半止水式、24 時間毎に換水</p> <p>物質濃度： 設定濃度 100mg/L 実測濃度 89.4mg/L (幾何平均値)</p> <p>助剤： なし</p> <p>96hLC50 (設定値に基づく) >100mg/L</p>
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、試験上限濃度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。
備考	

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-1307	CAS No.	119-06-2
判定案	人健康影響 第二種監視化学物質相当 生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されな い。		
名称 構造式等	名 称： ジトリデシルフタレート <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	陰性 純度 99.82%。溶媒 (DMSO-溶解). TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA. (本試験 I、II) -S9mix 群：5000 μg/plate (TA1537：最高用量で菌の生育阻害 TA98, TA100, TA1535, WP2 uvrA： 1250 μg/plate 以上で被験物質の析出) +S9mix 群：5000 μg/plate (1250 μg/plate 以上で被験物質の析出)		
染色体 異常	陰性 純度 99.82%。溶媒 (DMSO-溶解). CHL/IU. 4.750 mg/mL (調製可能な最高用量) まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、 以下の濃度まで実施。 -S9mix 群：4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) +S9mix 群：4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) 24 時間処理群：4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出) 48 時間処理群：4.750 mg/mL (全用量で被験物質の析出)		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒：コーン油	
	純度	93.7~100% *エステル価 198-212 より換算	
	用量	3 投与群(10, 50, 250 mg/kg/day)	
	死亡	なし	
	NOEL	反復投与：10mg/kg/day 生殖発生毒性：50 mg/kg/day	
推定根拠	反復投与： 一般状態(流涎：50 以上♂) 相対重量(肝↑：50 以上♀・250♂) 組織学的所見(肝-小葉中心性肝細胞肥大：50 以上♂♀) 生殖発生毒性： 出生率の低下(250♀)		

	他の毒性	反復投与： 体重↓(交配前)：(250♀) 血液生化学的検査(ALP↑：250♂) 絶対重量(腎↑：250♂) 組織学的所見(腎－好酸性小体↑、 腎－腎盂上皮過形成：250♀、膀胱－移行上皮過形成：250♀)
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験及び染色体異常試験は陰性であるが、NOEL 10 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当。	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 50 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 47.8mg/L (幾何平均値) 助剤：HCO-40 100mg/L 0-72hErC50 (設定値に基づく) >50mg/L 0-72hNOECr (設定値に基づく) =50mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 50 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 53.2mg/L (幾何平均値) 助剤：HCO-40 100mg/L 48hEiC50 (設定値に基づく) >50mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 試験濃度：設定濃度 10.0 mg/L 実測濃度 9.51~10.4mg/L 助剤：HCO-40 及び DMF (1:1) 40mg/L 21dNOEC (設定値に基づく) =10mg/L (最高濃度では影響が認められなかった)	
魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 50.0 mg/L (分散可能最大濃度) 実測濃度 48.8mg/L (幾何平均値) 助剤：HCO-40 100mg/L 96hLC50 (設定値に基づく) >50mg/L	
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験及びミジンコ繁殖阻害試験において、溶解限度で影響が認められないことから、第三種監視化学物質相当でない。	
備考		

既存化学物質審査シート

官報公示 整理番号	3-2011	CAS No.	121-03-9
判定案	<p>人健康影響 収集された情報からは第二種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p> <p>生態影響 収集された情報からは第三種監視化学物質相当に該当するとは判断されない。</p>		
名称 構造式等	<p>名称：2-メチル-5-ニトロベンゼンスルホン酸</p> <div style="text-align: center;">  </div>		
分解性	難分解性		
蓄積性	高濃縮性でない		
Ames	<p>陽性</p> <p>比活性値=42.1rev/mg (S9mix 群 : TA98)</p> <p>-S9mix 群の TA98, TA100, TA1537 及び+S9mix 群の TA100 で対照群の 2 倍を超える復帰コロニーの誘発</p> <p>純度 79.60%. 溶媒 (注射用蒸留水-溶解). *純度換算あり</p> <p>TA98, TA100, TA1535, TA1537, WP2 uvrA.</p> <p>(本試験 I、II)</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate*</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate*</p> <p>(追加試験) TA1535</p> <p>-S9mix 群 : 5000 μg/plate*</p> <p>+S9mix 群 : 5000 μg/plate*</p>		
染色体 異常	<p>陰性</p> <p>純度 79.60%. 溶媒 (生理食塩液-溶解). CHL/IU. *純度換算あり</p> <p>2.2 mg/mL(10mM)まで実施した細胞増殖抑制試験の結果を参考に、以下の濃度まで実施.</p> <p>-S9mix 群 : 2.2 mg/mL*</p> <p>+S9mix 群 : 2.2 mg/mL*</p> <p>24 時間処理群 : 2.2 mg/mL*</p> <p>48 時間処理群 : 2.2 mg/mL*</p>		
反復経口投 与毒性・生 殖発生毒性 併合試験 (ReproTox)	投与方法	強制経口投与 溶媒 : 注射用水	
	純度	79.6%	
	用量	3 投与群 (175, 350, 700 mg/kg)	
	死亡	700 ♀ (2/12)	
	NOEL	<p>反復投与毒性 : 175 mg/kg/day</p> <p>生殖発生毒性 : 700 mg/kg/day</p>	
推定根拠	<p>反復投与毒性 :</p> <p>組織学的所見 (胃-境界縁粘膜の過形成, 噴門部粘膜の萎縮 : 350 以上 ♀ ♂)</p> <p>生殖発生毒性 :</p> <p>特に毒性学的影響は認められていない。</p>		

	他の毒性	体重↓：700♀♂ 摂餌量↓：700♂ 一般状態（端鳴・軟便・腹部膨満：700♀♂） 血液生化学的検査（Fe↑・TP↓：700♂） 組織学的所見（胃-腺胃のびらん・表層出血：700♀♂）
	回復性	実施せず
人健康影響判定根拠	Ames 試験は陽性であるも軽微であり、染色体異常試験は陰性、NOEL 175 mg/kg/day であることから第二種監視化学物質相当でない。	
藻類生長阻害	生物種： <i>Pseudokirchneriella subcapitata</i> 試験法：OECD-TG201 培養方式：振とう培養 試験濃度：設定濃度 29.8、39.3、50.2、65.2、86.4、110、141mg/L 実測濃度 設定濃度の 98~106% 助剤：なし 0-72hErC50（設定値に基づく）=121mg/L 0-72hNOECr（設定値に基づく）=65.2mg/L	
ミジンコ急性遊泳阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG202 試験方式：止水式 試験濃度：設定濃度 78.5、104、137、179、236mg/L 実測濃度 80.9、105、141、182、239mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 48hEiC50（設定値に基づく）=130mg/L	
ミジンコ繁殖阻害	生物種：オオミジンコ <i>Daphnia magna</i> 試験法：OECD-TG211 試験方式：半止水式、週に3回換水 試験濃度：設定濃度 2.36、6.28、16.5、44.0、118 mg/L 実測濃度 設定値の 98~107% 助剤：なし 21dNOEC（設定値に基づく）=16.5mg/L	
魚類急性毒性	生物種：ヒメダカ <i>Oryzias latipes</i> 試験法：OECD-TG203 試験方式：半止水式、24 時間毎に換水 物質濃度：設定濃度 100mg/L 実測濃度 101mg/L（幾何平均値） 助剤：なし 96hLC50（設定値に基づく）>100mg/L	
生態影響判定根拠	3種の急性毒性試験から得られる最も低い毒性値は、0-72hErC50=121mg/L（藻類生長阻害試験）であり、かつミジンコ繁殖阻害試験において21dNOEC=16.5mg/Lであることから、第三種監視化学物質相当でない。	
備考		